

大雪山国立公園協働型管理運営体制の構築

1. 大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会

- 大雪山国立公園ビジョンの議論（継続中）
- 第3回準備会の開催【12～1月】
- 大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）の発足【年度内】
 - ※発足とあわせて、「大雪山国立公園フォーラム」を開催（一般参加、詳細未定）
 - ※来年度以降、利用者負担について議論予定
(その準備として、本年度は登山者アンケート実施。年内にとりまとめ予定。)

2. 登山道維持管理部会

- 部会の運営検討、構成員・オブザーバー
 - 部会成立後の取組の試行
 - ・最新の登山道関係情報の一元的な発信
 - ・歩道等維持管理作業実施手順マニュアルの運用
- 「話題提供」で議論

大雪山国立公園ビジョン

まもり、活かし、つなげよう

みんなでつくる世界を魅了する大雪山

大雪山国立公園の価値と歩み

○優れた価値

日本でここだけにしかない
広大で原生的な山岳景観



多様な景観要素・高い生物多様性
高山植物、高山蝶、ヒグマ等大型哺乳類等
柱状節理、滝、温泉、湖、周氷河地形等



天然記念物、森林生態系保護地域、日本遺産など
多様な観点から高い評価

○これまでの歩み

調査研究や保全のさきがけ
・霊山碧水国立公園建白書
・大雪山調査会による学術研究と活用

大規模開発と
自然保護の調整

価値を損なわない範囲での
持続可能な利用がテーマ

・大雪山グレード
・大雪山国立公園
携帯トイレ普及宣言



写真

現状と課題

○気候変動

紅葉色づきの低下
ササの増加
降水量の増加



五色ヶ原

○人口減少と高齢化 ライフスタイルの変化、 価値観の多様化

大きく影響

○外国人利用者の増加



写真

○山岳地域の荒廃

①保全上の課題
植生の変化、地形地質の侵食

②利用上の課題
施設の荒廃と老朽化、し尿の問題、情報提供、
利用者間、利用者・管理者の軋轢登山道の荒廃



登山道荒廃



標識



し尿

○利用拠点の低迷

①体験型利用の取組
旅行形態の変化への対応不十分
資源の発掘、評価、ストーリー化が必要

②情報提供
体験型利用にアクセスするための情報発信
多言語による情報提供

写真
廃屋などにはきわいの
ない空間

地域の誇りとなり、世界の人々を魅了する山岳国立公園にするために！

大雪山国立公園の目指す姿

①大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった 国立公園

○山岳地域・・・大雪山グレードに応じた保全
(植生変化への適応、消失した植生、地形地質の回復)

○山麓地域・・・多様な景観要素の保全
(峡谷と柱状節理、湖、滝、温泉など)

②魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園

○山岳地域・・・大雪山グレードに応じた管理と利用
(登山道荒廃の解消、案内板や誘導標識整備、し尿問題解決、進展する技術による軋轢の調整)

○山麓地域・・・利用体験の質の向上
(各利用拠点の目的地化、ストーリー磨き上げ、体験方法提案)

③つながっていく国立公園

○来訪者に向けた情報発信

○大雪山国立公園に関わる者すべてに向けた価値の発信

④みんなが協働して管理運営する国立公園

○協働型管理運営体制の維持

○管理運営への利用者の参加、周辺地域との連携

○みんなが学び成長し、将来世代へ引き継ぐ国立公園

大雪山国立公園90周年（2024年度）に向けて取組加速
10年後、2030年にビジョン達成状況の評価

本年度重点事項：利用環境づくりの強化、道外の利用者への周知

○携帯トイレ普及宣言に基づく取組の実施

○携帯トイレ普及パートナーは引き続き募集中



登山者の
皆さまに
お願い

- 大雪山国立公園では、携帯トイレを常に持参しましょう。
- 携帯トイレは常設トイレがない箇所で使用しましょう。
- 美瑛富士やトムラウシ南沼では、し尿散乱が大きな問題となっています。避難小屋や野営指定地、水源地では、携帯トイレを必ず使用し、野外にし尿を排出しないようにしましょう。
- 登山道の途中など、問題となっていない場所でも、携帯トイレを使用し、し尿を持ち帰るよう努めましょう。

深刻なトイレ問題

大雪山では、トイレのない避難小屋や野営指定地を中心に、し尿散乱や高山植生の消失が大きな問題になっています。



野営指定地に
散乱するし尿や
ティッシュ



トイレのために
草花が踏み、
裸地化

様式第1

大雪山国立公園携帯トイレ普及パートナー登録申請書

大雪山国立公園携帯トイレ普及パートナーシップ事業実施規約第3条に基づき、大雪山国立公園における携帯トイレの利用推進に係る取組（以下「取組」という。）の案を以下のとおり作成し、同パートナーシップの登録を申請します。

平成 年 月 日

団体等の住所、名称

代表者氏名

印

大雪山国立公園連絡協議会長 殿

すでに実施している取組の概要	
当年度末までに実施予定がある取組の概要	※2月1日～3月末日までの間に提案を行う場合は、翌年度末までの内容とする。
取組による効果の見込み	※可能な限り定量的に記載。
担当者氏名・連絡先	

※申請書様式は大雪山国立公園連絡協議会HPから入手可能

<http://www.daisetsuzan.or.jp/wp-content/uploads/2018/07/2124c9a855a917ec8638fb102ac0f016.docx>

○美瑛富士携帯トイレブース設置



位	置	基	数	： 1 基
設	置	基	数	： 1 基
規	模	構	造	： 木造 縦2,368mm×横910mm×幅1,517mm
供	用	期	間	： 6月から9月（夏山登山シーズン）
事	業	費	： およそ790万円	
維	持	管	理	： 美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書に基づき北海道地方環境事務所、美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会※の3者が協同で維持管理を行う。

○美瑛富士携帯トイレブース利用状況調査

携帯トイレブースに関する利用状況調査の把握及び、周辺環境に変化について調査を行った。

試行的に仮設の携帯トイレブースを設置した平成28年から今年で4回目。

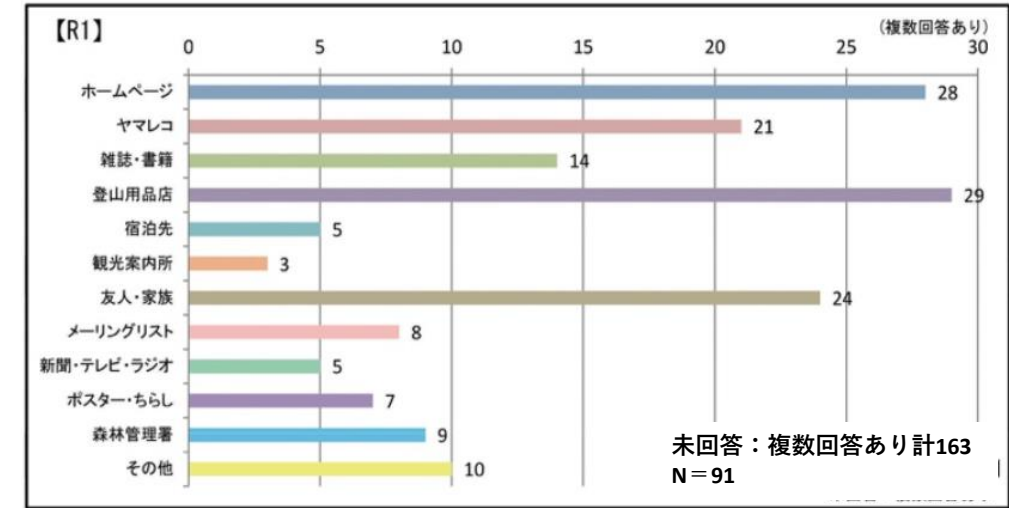
	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年
調査期間	8月3日～9月22日	7月14日～8月12日	8月26日～9月30日	7月15日～8月28日
調査日数	10日	10日	14日	14日
総回答件数	91件	101件	61件	212件
備考	10日中3日降雨	10日中5日降雨	14日中6日降雨	天候に関する記録なし

(1)携帯トイレ利用の呼びかけの認知度の向上及び情報入手の手段の拡大

82名（90％）が携帯トイレの呼びかけを知っていた。下記グラフのとおり、情報入手手段が多様化、普及の効果が表れている。
※H29 66％、H30 86％

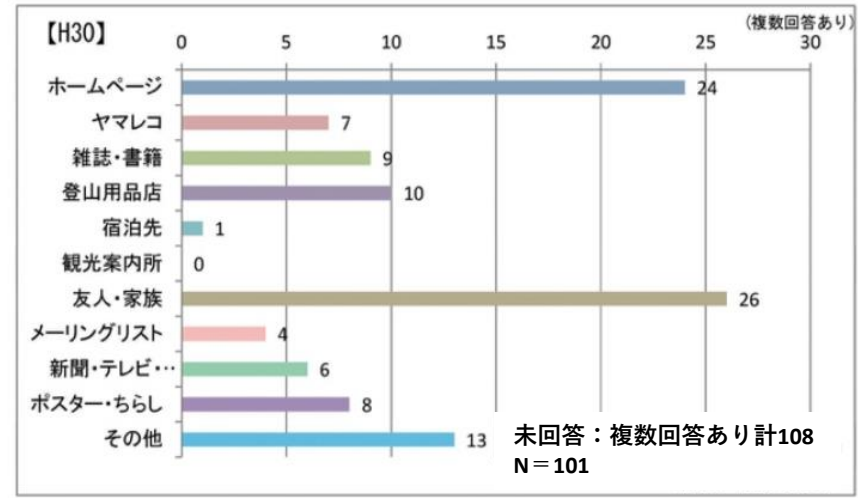
(2)携帯トイレ携行の有無の向上

72名（79％）が携帯トイレを携行していた。※H29 62％、H30 77％



(3)携帯トイレ利用率は、山行中に排便した人の中で、ブースを利用した人は、**8名中6名（75％）**に対し、小便した人は、**43名中7名（16％）**。過去も含め低いまま推移している。

(4)3回の周辺環境調査では初回（8月4日）のみ、**7か所の残留物**を確認。一部踏み分け跡が草地となっている箇所あり。



○携帯トイレ普及キャンペーン 中岳温泉（令和元年7月4日～16日）



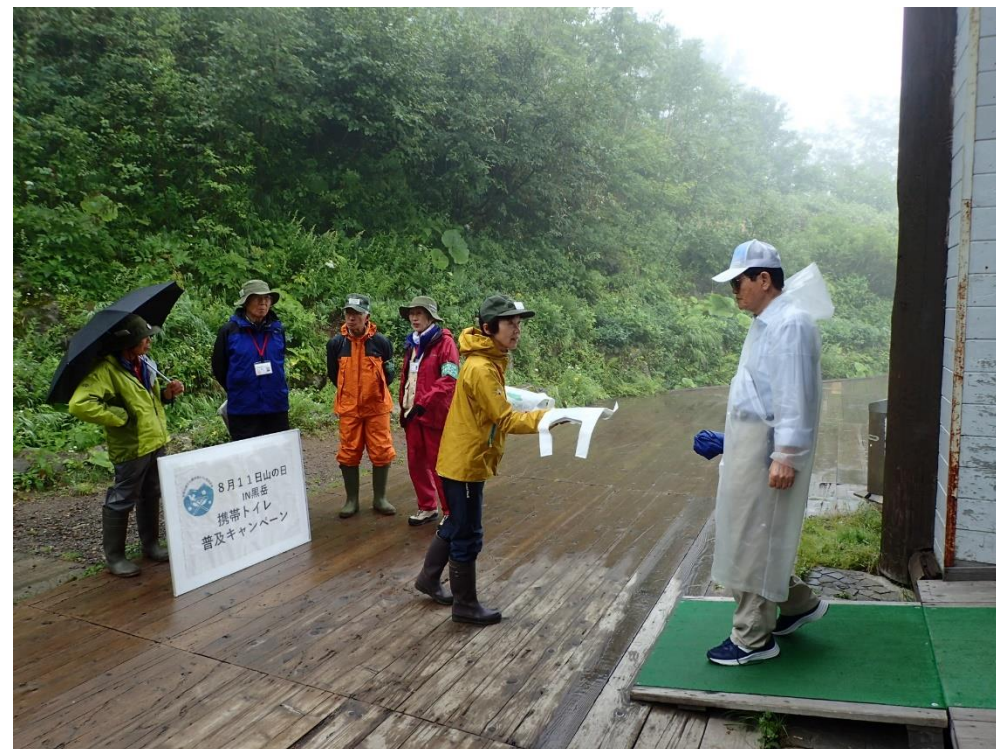
○大雪山国立公園連絡協議会

○実施結果

海の日の3連休を含む、7月4日～16日まで13日間、携帯トイレブースを設置し、ブースの利用者数は*9名程度であった。 *テント内に設置したカウンターによる数値

※今年度は、海の日の3連休の登山者をターゲットにしたが、来年度は裾合平のチングルマの群落が満開になる7月中旬～後半に設置期間を延ばすことと、9月紅葉シーズンの設置も検討する。

○携帯トイレ普及キャンペーン 黒岳（令和元年8月11日・山の日）



○大雪山国立公園連絡協議会＋株式会社りんゆう観光共催

○実施結果

霧雨のため、登山者は170名程度と少なかった。

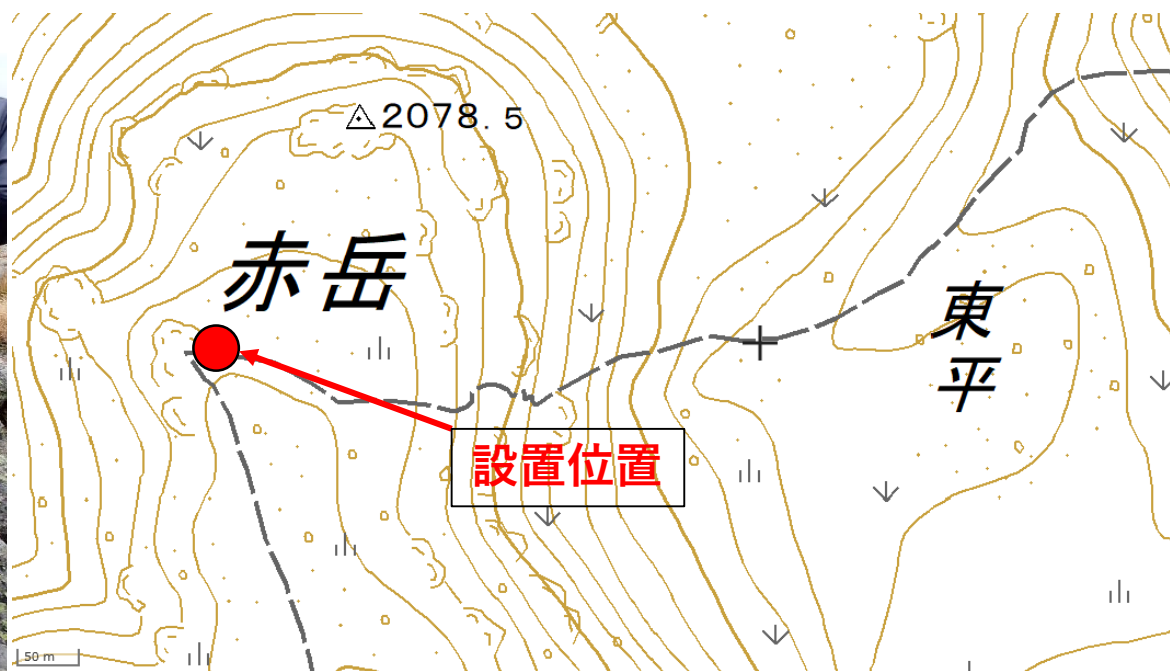
携帯トイレ普及宣言チラシ、パンフレット、ゴミ袋等110セット配布。

携帯トイレ販売3つ。

※携帯トイレを知らない、使ったことがない利用者向けに、認知を高めるキャンペーンは、ほぼ役割を終えたものと考えられる。

※今後は、携帯トイレを実際に使用してもらうことを含む実効的なキャンペーンに力を入れていく。

○携帯トイレ普及キャンペーン 銀泉台～赤岳（令和元年9月15日～23日）



○大雪山国立公園連絡協議会

○実施結果

携帯トイレテントブースの設置は9月14日～23日までを予定していたが、9月20日の悪天候で携帯トイレテントブースが倒壊したため、それ以降の設置は中止とした。

なお、9月14日～20日までの携帯トイレテントブースの利用者数は*20名程度であった。

※今年度は、赤岳山頂付近に携帯トイレテントブースを設置したが、悪天候時強風を受けやすい環境下であったことから、来年度は山頂付近を避け、倒壊するリスクが低い地点に設置する予定である。

*テント内に設置したカウンターによる数値

○携帯トイレ普及キャンペーン 高原温泉（令和元年9月20日～29日）



○大雪山国立公園連絡協議会

○実施結果

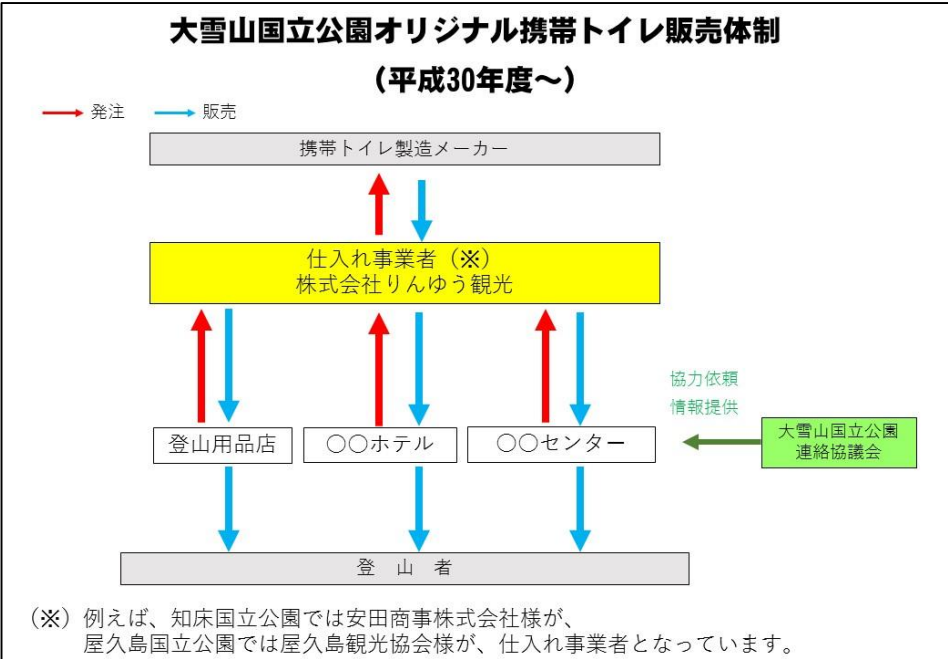
携帯トイレテントブースは緑沼より大学沼方面へ100m進んだ登山道脇の地点に設置。
設置期間は9月20日～29日までの10日間。期間中の利用者数は*80名程度であった。

※今年度は1箇所のみを設置であったが、来年度は、緑沼に加えエゾ沼付近にもう一基携帯トイレテントブースを増設したい。また、通年で設置するため、関係機関と調整したい。

※なお、携帯トイレブースはヒグマ監視業務人員も利用することから、設置の主体は環境省とすることを考えている。

*テント内に設置したカウンターによる数値

○大雪山オリジナルパッケージ携帯トイレの一括受注体制の維持【別添①】



- ※卸値は10月から350→360円に値上げ。
- ※今シーズンは、りんゆう観光から、
20以上の団体に、2000個程度を卸し。
- ※携帯トイレのパッケージに、回収ボックス等の地図を追加。



○携帯トイレ、回収ボックスの維持管理体制の継続【別添②】

大雪山国立公園におけるトイレの現状
2019年12月16日現在
上川・東川・上士幌自然保護官事務所

場所	市町	避難小屋・山小屋	野営場	トイレ	野外し尿の状況	携帯トイレブース	回収ボックス	携帯トイレ販売、その他備考
山岳地	黒岳	上川	有(管理人有)	有	少	無	—	—
	裏旭	東川	無	有(野営指定地)	無	少	無	—
	白雲岳	上川	有(管理人有)	有	少	無	—	有 上川総合振興局、上川地区登山道維持管理連絡協議会、山のトイレを考える会で取組
	忠別岳	上川	有	有(野営指定地)	有	無	無	—
	ヒサゴ沼	新得	有	有(野営指定地)	有	無	無	—
	南沼	新得、美瑛	無	有(野営指定地)	無	多	有	—
	沼ノ原大沼	上川	無	有(野営指定地)	無	未確認	無	—
	フヨ沼	上士幌、上川	無	有(野営指定地)	無	無	無	—
	小天狗のCOL	上士幌	無	有(野営指定地)	無	無	無	—
	ニベツツ山前天狗	上士幌	無	有(野営指定地)	無	少	有	—
	双子池	美瑛、新得	無	有(野営指定地)	無	多	無	—
	美瑛富士	美瑛、新得	有	有(野営指定地)	無	多	有	—
	十勝岳避難小屋	美瑛	有	有(野営指定地)	無	少	無	—
	上ホロカメツク	上富良野、新得	有	有(野営指定地)	有	少	無	—
	赤岳	上川	無	無	少	有※	—	※9月中旬のみ、大雪山国立公園連絡協議会携帯トイレ普及キャンペーンとして設置
	大雪山高原温泉沼めぐり登山コース・緑沼	上川	無	無	少	有※	—	※9月下旬のみ、同上
	中岳温泉	東川	無	無	少	有※	—	※7月中旬のみ、同上
登山口	層雲峡	上川	無	有	無	無	有	設置は環境省、回収は上川町
	登山道温泉	上川	有	無	有	無	有	設置・回収は上川町
	銀泉台	上川	無	無	有	無	無	有
	大雪山高原温泉	上川	有	無	有	無	有	設置は上川地区登山道維持管理連絡協議会、回収は上川町
	安見	東川	有	無	有	無	無	有
	旭岳温泉	東川	無	有	有	無	有	設置は振興局、回収は上川町
	天人峯	美瑛	無	無	有	無	無	無
	クチャンベツ	上川	無	無	有(仮設)	無	無	無
	美瑛富士登山口	美瑛	無	無	無	無	無	無
	白金温泉望岳台歩道登山口(白金観光センター)	美瑛	無	有	有	無	有	回収は美瑛町
	望岳台	美瑛	無	無	有	無	有	設置・回収は美瑛町
	吹上温泉	上富良野	無	有	有	無	有	回収は上富良野町
	十勝岳温泉	上富良野	無	有	有	無	有	回収は上富良野町
	原野ヶ原登山口	富良野	有	無	有	無	無	無
	シヤナイダークコース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	無	無
	ユニ石狩登山口	上士幌	無	無	無	無	無	無
	トムラウシ温泉コース登山口	新得	無	有	有	無	有	設置は北海道、回収は新得町
	トムラウシ短縮コース登山口	新得	無	無	有	無	有	設置は北海道、回収は新得町
	十勝岳新得コース登山口	新得	無	無	無	無	無	無
	ニベツツ山十六の沢コース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	有	設置は北海道、回収は上士幌町
	ニベツツ山横加温泉コース登山口	上士幌	無	無	有(仮設)	無	有	設置は北海道、回収は上士幌町
	ウベベサンケ山登山口	上士幌	無	無	無	無	無	無
	天室山登山口	上士幌	無	有	有	無	無	有
	南ベツトル山登山口	鹿追	無	無	有	無	無	無
	白雲山然別湖側登山口	鹿追	無	無	有(仮設)	無	無	無
	白雲山士幌側登山口	士幌	無	有	有	無	無	無
	東ヌプカウシヌプリ登山口	鹿追	無	無	無	無	無	無
	西ヌプカウシヌプリ登山口	鹿追	無	無	有	無	無	無

○遭難対策ポールマーキング&ソリで木材運搬 in 裾合平（5月29日開催）



○東川自然保護官事務所＋
大雪山山守隊共催

○実施結果

- ・ポールマーキング12名、
ソリ木材運搬37名参加。
- ・姿見の池から約1km地
点より裾合平分岐までマーキング実施
- ・ピウケナイ沢手前まで木材運搬実施

※ポールマーキングは、次年度も実施予定。

○たまには山へ恩返しinトムラウシ （7月20～21日開催）



上士幌自然保護官事務所＋大雪山山守隊共催

【実施結果】

- ・泥濘区間に木道を計69基整備
（1日目：33基 2日目：36基）
- ・2日間でのべ37名参加

○たまには山へ恩返しin愛山溪（9月7日開催）



- 一般社団法人大雪山・山守隊、環境省上川自然保護官事務所主催 **38名参加**
- ・愛山溪三十三曲～沼ノ平分岐区間の法面保護と歩行路の設置
 - ・半月湖上部の小規模木道設置

- たまには山へ恩返しin裾合平（8月31日開催 第一部主催：上川総合振興局）
- 第二部 座学講習会を大雪山国立公園連絡協議会が主催 **21名参加。**



(グリーンワーカー事業)

- 清掃活動事業（層雲峡、勇駒別、天人峡、糠平、十勝三股の各集団施設地区等利用拠点の美化清掃）
- 高原温泉・銀泉台自動車利用適正化対策業務
- スノーモビル乗入れ対策（普及啓発看板設置、パトロール）（12月～3月）
- 美瑛富士携帯トイレブース設置及び利用状況調査業務（6月～11月）
- 原始ヶ原湿原における植生復元手法の評価検討業務（12月～3月）
- トムラウシ南沼における携帯トイレブース増設（7月上旬）（※）
※南沼汚名返上プロジェクトの一環として実施

(自然ふれあい)

- パークボランティア活動（登山道維持管理、外来種対策、利用者指導、モニタリング等）
【別添③】
- 層雲峡ビジターセンター及びひがし大雪自然館を拠点とする自然観察講座
- 子どもパークレンジャー事業（然別湖）

(野生生物の保護管理)

- 然別湖ウチダザリガニ対策事業
- 高原温泉ヒグマ情報センターの管理運営
※原生的な自然景観・生態系保全及び安全対策の充実と、体験の質・満足度の向上の両立

(施設整備・維持管理)

- 環境省が管理する沼ノ平～姿見の池登山道（※）、中岳温泉～間宮岳登山道（※）、沼ノ原木道及びトムラウシ登山道の巡視
※登山道維持管理データベースを活用した管理。
- 松仙園地区適正利用推進協議会の開催（1～3月）
- 銀河流星ノ滝線歩道の整備検討

(その他)

- 北海道が管理する誘導標識に登山道グレードのラミネート設置（東川管内、管理支援）



○登山者カウンターの設置による登山道利用者数調査

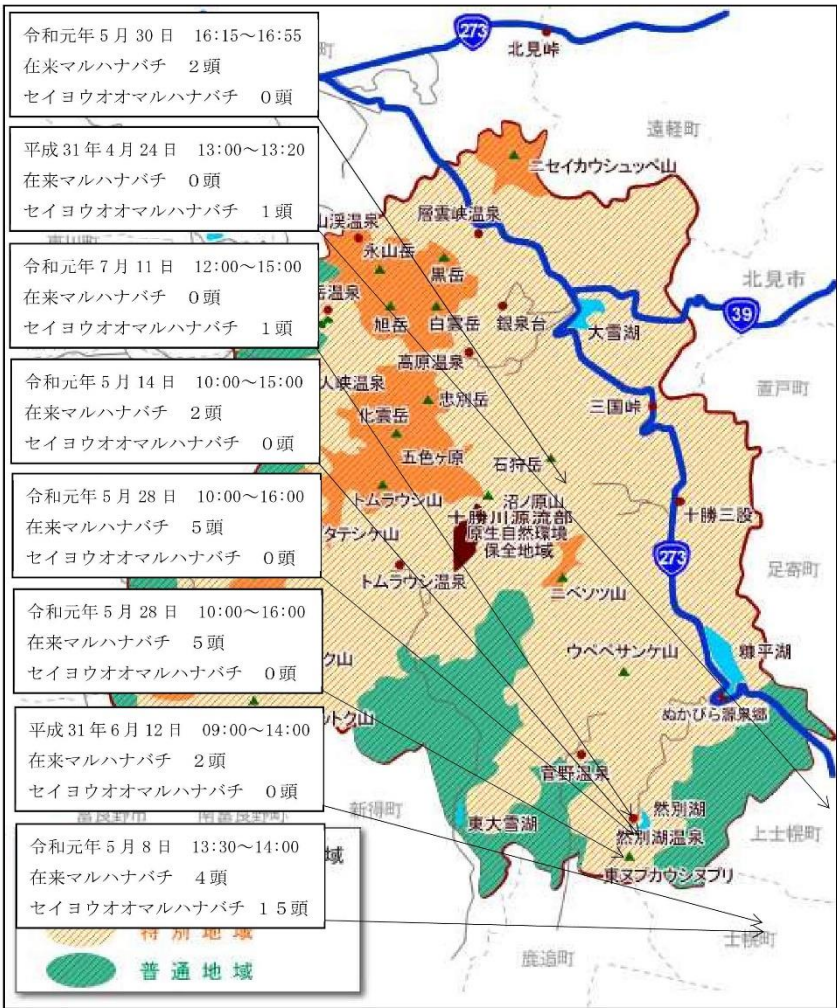
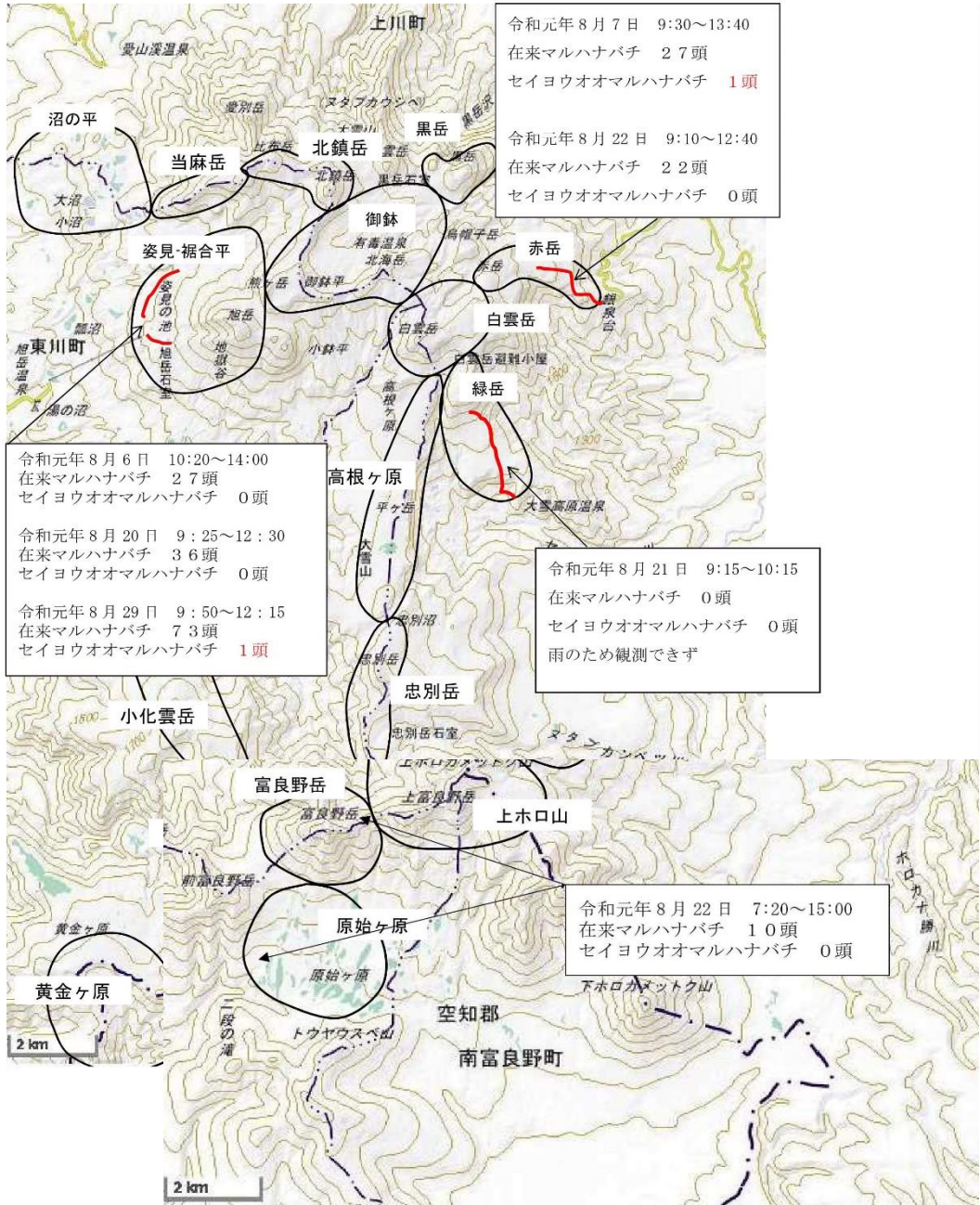
○環境省国立公園HPで公開中 <<https://www.env.go.jp/park/daisetsu/data/tozandoriyosya2016.html>>

令和元年度大雪山国立公園入山者数の推計結果（登山者カウンター等カウント値結果）

- 対象とする登山口
令和元年度は、下表の登山口を対象とした。位置図は別紙のとおり。なお、現時点では利用者が少なく、登山者カウンターを設置して人数を計測しても、全体数の誤算の範囲に含まれてしまうと考えられる登山口は対象にしていない。
- 結果の概要
①月別の入山者数は、最も多い月が7月、その次が9月であると考えられる。
②入山者が多い上位3登山口は、姿見の池（旭岳方面）、黒岳登山口、姿見の池（裾合平方面）である。
なお、熱感知式カウンターの精度検証の結果から入山者数の実数はカウント値よりも一定程度少ないと考える必要がある。令和元年度6月～10月期の大雪山国立公園の年間のカウント数を単純に合計した値について、これまでに実施した精度検証の結果から、仮に誤差が約110%～148%と仮定すると、大雪山国立公園全体の入山者数は約8～10万人程度の間にあると考えられる。

登山口		年間	6月	7月	8月	9月	10月	推計方法	カウンター設置期間
1	黒岳登山口	約19000程度	—	約6300程度	約4500程度	約6100程度	約2200程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年7月1日～10月11日
2	銀泉台登山口（第一花園下）	約9000程度	約200程度	約2600程度	約1000程度	約5100程度	約100程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年6月27日～10月3日
3	高原温泉登山口（緑岳コース）	約3800程度	約50～100程度	約1300程度	約1000程度	約1200程度	約200程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年6月28日～10月10日
4	高原温泉登山口（沼巡りコース）	約6100程度	約200程度	約400程度	約400程度	約4600程度	約500程度	ヒグマ情報センター利用者数資料	—
5	クチャンベツ登山口	—	—	—	—	—	—	熱感知式カウンターからの推計	—
6	愛山溪温泉登山口	約1700程度	—	約0～50程度	約500程度	約1100程度	約200程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年7月30日～10月15日
7	姿見の池（裾合平方面）	約12000程度	約2800程度	約4900程度	約1500程度	約2800程度	約300程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年6月7日～10月11日
8	姿見の池（旭岳方面）	約30000程度	約2500程度	約8700程度	約10000程度	約6600程度	約1800程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年6月7日～10月11日
9	美瑛富士登山口	約900程度	約200程度	約300程度	約300程度	約200程度	約0～50程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年6月6日～10月10日
10	天人峡登山口	約400程度	約0～50程度	約100程度	約50～100程度	約100程度	約50～100程度	人感センサー式カメラからの推計	令和元年6月1日～10月11日
11	十勝岳登山口（美瑛岳方面）	約1500程度	約200程度	約500程度	約400程度	約400程度	約50～100程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年6月6日～10月10日
12	十勝岳登山口（十勝岳方面）	約11000程度	約1800程度	約3500程度	約3400程度	約2000程度	約300程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年6月6日～10月10日
13	十勝岳温泉（安政火口）	約10000程度	約1500程度	約4200程度	約2000程度	約2300程度	約300程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年6月6日～10月10日
14	原始ヶ原登山口	約400程度	約40～60程度	約100程度	約50～100程度	約100程度	約50～100程度	人感センサー式カメラからの推計	令和元年6月6日～10月10日
15	十勝岳新得側登山口							国有林入林簿からの推計	—
16	トムラウシ山（短縮コース）登山口	約2600程度	約100程度	約1100程度	約800程度	約600程度	約0～50程度	赤外線式カウンターからの推計	令和元年5月31日～10月4日
17	トムラウシ山（温泉コース）登山口	約100程度	約0～50程度	約40～60程度	約40～60程度	約0～50程度	約0～50程度	赤外線式カウンターからの推計	令和元年5月31日～10月4日
18	石狩岳登山口	約500程度	約0～50程度	約50～100程度	約50～100程度	約200程度	約0～50程度	赤外線式カウンターからの推計	令和元年5月30日～10月18日
19	ユニ石狩岳登山口	約200程度	約0～50程度	約40～60程度	約50～100程度	約50～100程度	約0～50程度	国有林入林簿からの推計	
20	ニペツツ山（幌加温泉コース）登山口	約1100程度	約200程度	約300程度	約300程度	約200程度	約0～50程度	熱感知式カウンターからの推計	令和元年5月30日～10月18日
21	白雲山土幌側登山口							国有林入林簿からの推計	—
22	白雲山鹿追側登山口	約2300程度	約400程度	約400程度	約400程度	約700程度	約400程度	国有林入林簿からの推計	—
23	東ヌプカウシヌプリ登山口	約1400程度	約300程度	約200程度	約300程度	約400程度	約300程度	国有林入林簿からの推計	—
24	南ベウトル山登山口	約300程度	約50～100程度	約0～50程度	約50～100程度	約40～60程度	約40～60程度	国有林入林簿からの推計	—

○セイヨウオオマルハナバチ防除の考え方に基づくモニタリング



※高山帯では、上記の2件の他、黒岳で1頭を確認。継続して観察されないことから、偶発的侵入と考えられる。

○松仙園地区の整備工事实施（2019年施工済、2020年開通予定）【別添④】

全体平面図



<ポイント>

- 松仙園地区適正利用推進協議会で利用ルールを検討。
- 7月14日～9月30日まで利用可能。
- 植生を最大限保護するため、上り一方通行。
- 利用による植生への影響をモニタリング。

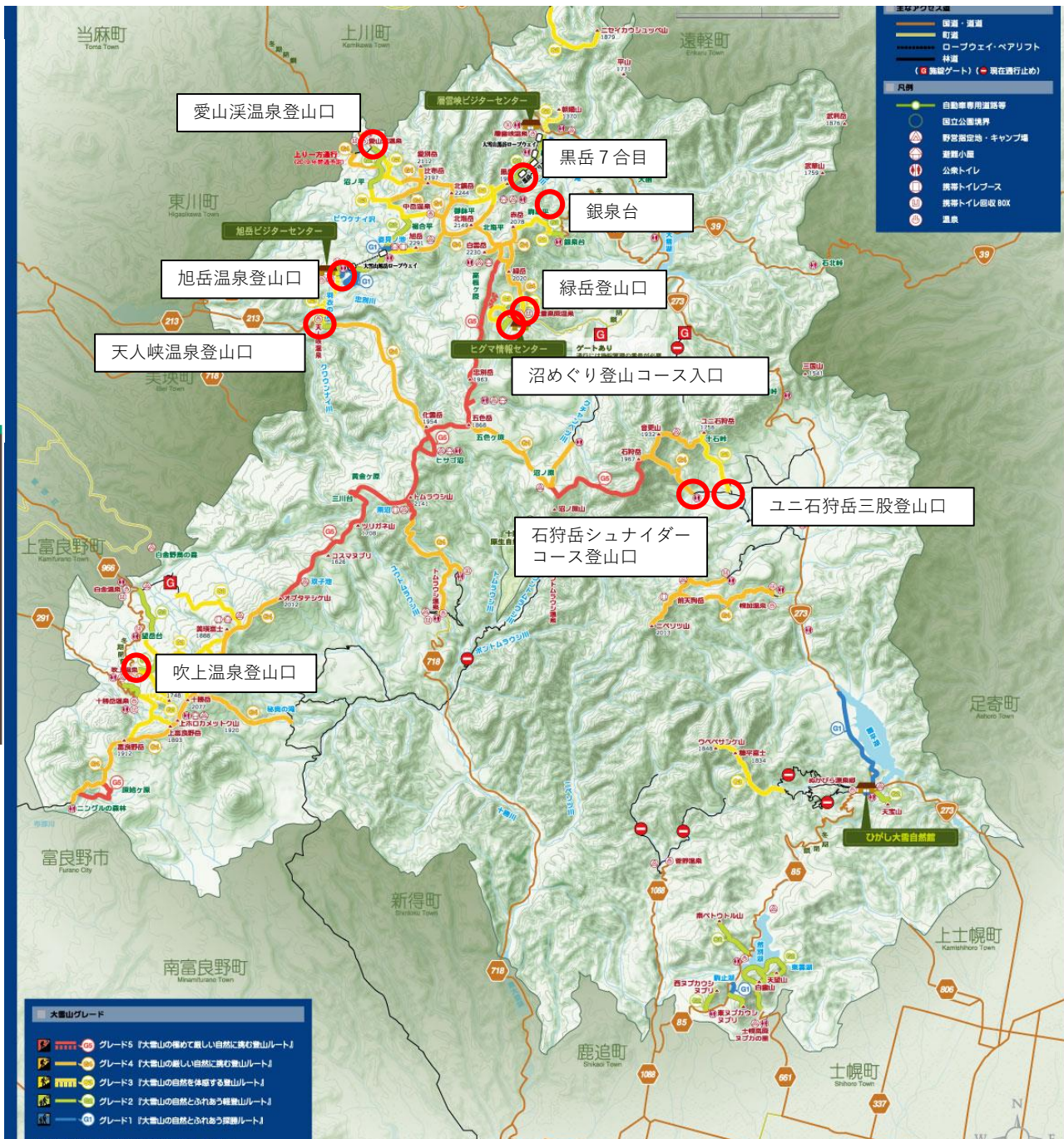
区間	距離	測量	測量
⑤	918.00	測量	A85-B52
⑥	500.00	図上算定	
⑦	289.03	測量	C32-C78
⑧	112.45	測量	C78-C96
合計	4554.91		



○案内標識再整備（大雪山グレード明示）

- ・環境省で整備した登山口の案内標識を更新
- ・大雪山グレードを地図に明記
大雪山グレードの説明を記載
随時更新できる情報掲示スペースを設ける。

<イメージ>



○白雲岳避難小屋建て替え【別添⑤⑥】



<ポイント>

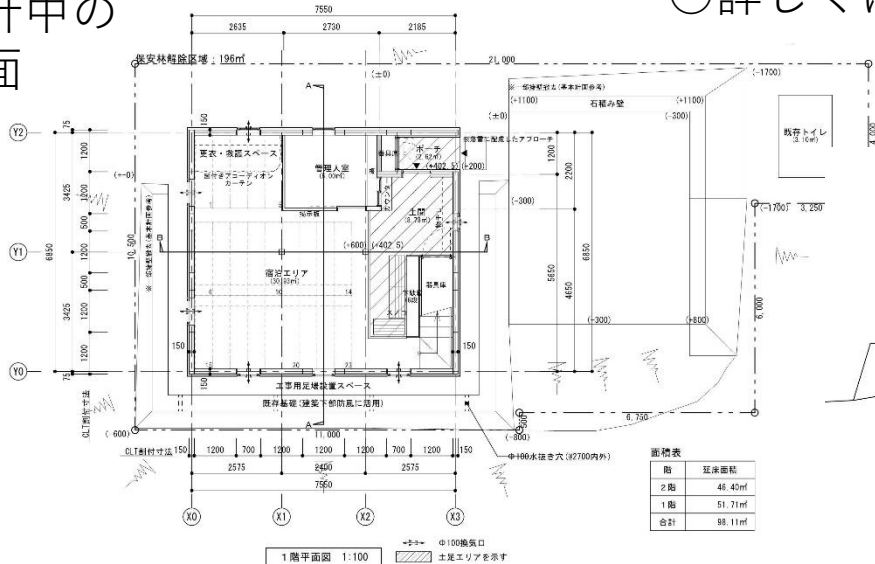
- 令和2年7～9月に、環境省が建替え工事实施。
- 現在の白雲岳避難小屋を解体、撤去。跡地に同じ規模の避難小屋を建設。

○工事期間中、野営指定地は、次のように使用。

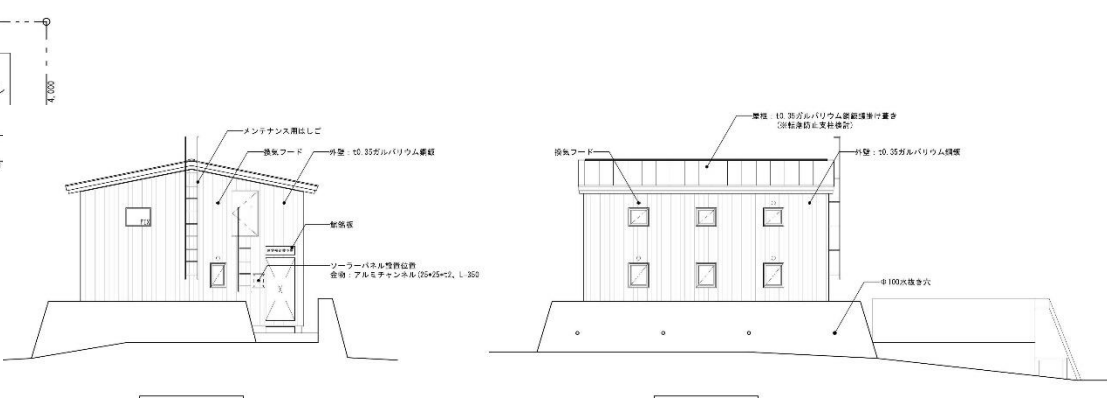
- ①資材ヤード
- ②プレハブ（工事作業員の事務所、宿舎兼避難小屋）
- ③テント場（①②の余りスペース）

○利用可能人数は大幅に減少。そのため、土日休日及びその前日に白雲岳避難小屋及び野営指定地を宿泊目的とした登山は自粛を要請予定。

※設計中の
図面



○詳しくは、令和2年3～4月の第2報でお知らせ予定。



階	延床面積
2階	48.40㎡
1階	51.71㎡
合計	99.11㎡